

# 丸山湿原群保全の会会報

(第 197 号)

発行日：2023 年 (R5) 12 月 20 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会  
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:[maruyamashitugengun@gmail.com](mailto:maruyamashitugengun@gmail.com)

## 戦争は最大の環境破壊と差別を生み出します！

今年も年末を迎えています。2023 年の終わり。ちょっと早いような気がします。2000 年 (ミレニアム) からすでに四半世紀過ぎようとしています。「21 世紀の世の中はなるのか」と想像したのを思い出します。1970 年の「大阪万博」がその象徴だったような。「携帯電話」「光ファイバー」「電気自動車」など実現した「未来」も多数。「外国の人」も珍しい時代。会場では多くの「外国の人」を見て歓喜したのを憶えています。その「万博」が再来年までも大阪で開催。さて今回はどんな未来 (夢) を見せてもらえるのでしょうか？世界中で戦争が勃発している昨今、明るい未来が描けるのでしょうか？「地球温暖化」や「生物多様性の保全」に対しての秘密兵器などもぜひ提案していただきたいものです。

メインテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」だそうです。今回調べて初めて知りました。「SDGs」が大きなテーマになっているとは思いますが、1970 年の「人類の進歩と調和」の方が普遍的なような気がします。気候変動の「ティッピング・ポイント (それまで小さく変化していたある物事が、突然急激に変化する時点)」は今現在ともいわれています。1.5 度の目標 (約束) は既に絵空事？「戦争」や「裏金」で揉めていていいのでしょうか。COP28 も終了。さて、どちらの方向へ進む「ティッピング・ポイント」になるのでしょうか…明白か？ではどう生きる？

(今住 12 月 18 日作成)

## キイロスズメバチの結末 ★突然の崩壊！いったい何が起こった？縁起物 (金運) は微笑まず！

そろそろ動きが止まると観察を続けていたキイロスズメバチ。意外な結末に。11 月 18 日に見に行くと巣がかなり傷んでいました。何が原因かは不明ですが、働きバチが多い時は数日で修復。また



11 月 18 日の巣 一部破損



11 月 22 日の巣 完全崩壊

丸い姿を取り戻していました。しかし暖冬とはいえ、スズメバチにとってはかなり厳しい時期。餌となる木の汁 (蜜)・花の蜜や幼虫のエサの昆虫も相当少ないはず。やはり修復が間に合わなかったのか、ハチの数が激減し雨と強い風に負けたのか、22 日には完全崩壊していました。テンやイタチ、鳥がここぞとばかり狙っていたのかもしれませんが。真相は不明。しかしここまで大きくなったキイロスズメバチの巣。多くの「新女王様」と多くの「雄蜂」が飛び立ったに違いありません。(無精卵は雄になるらしい…どうなってるんや？産み分けも可能だとか) 大変ご迷惑をおかけしましたが、長い間観察できたのもよかったです。

もう少し早く危険エリアを設定して注意喚起をするべきだったと反省しています。同じところに新たな巣ができないよう、対策は練りたいと思っています。見守り続けて下さった (いやいやか?)

皆様ありがとうございました。

そうそう崩壊した巣の中身（巣棚）の形や大きさはいろいろでしたが、6 段以上あり蛹から成虫になりかけの個体や、今にも飛び出しかけて命尽きた個体まで残っていました。最も社会性が強いとされる「スズメバチ」、皆兄弟姉妹とはいえよくここまでできるものだと感心してしまいます。1 頭の寿命は約 1 ヶ月だそうです。自然から学ばなければならないことがたくさんある、今回の「スズメバチ騒動」でした。

### セミナー報告 ★11 月 23 日（木・祝）丸山湿原セミナー・自然史講座

今年も「西谷の森公園」「宝塚市」「阪神北県民局」と共催で実施することができました。今回のテーマは、「セトウチサンショウウオについて」と「生物多様性について」。絶滅危惧種（兵庫 B・国Ⅱ）に指定されている止水性小型サンショウウオと、その生息を支える生物多様性に関する話題。

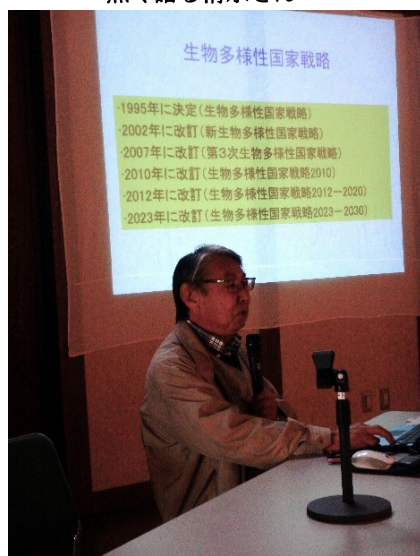
時代は「第 6 次大絶滅期」ともいわれています。しかもその原因のほとんどが人間による環境破壊だとか。地球環境の破壊と温暖化も切っても切れない関係です。まさしく「ティッピングポイント」。どちらに舵を切るのか、まずは「よく知る事」。

今回は講師を「西谷の森公園」自然教室ボランティアの清水勲さんと、「丸山湿原」や「西谷の森公園」のプランニングに当初から有識者として関わられ、本会の顧問もお願いしている神戸大学名誉教授の武田義明さんをお願いしました。ご両名の人気もあるのか、参加定員 40 名募集のところ 48 名のご参加をいただきました。秋晴れの祝日。行事も重なって心配していましたが杞憂に。

清水さんは「森公園」内にある湿原をグループで再生。サギソウなどの希少種を見事に復活。動物たちも戻ってきました。その中でいちばんのお気に入り「セトウチサンショウウオ」。めったに出会えない「あのかわいい目」の虜だそうです。（一部脚色あり）数年来、産卵数と条件を観察し、グループ内で「セトウチサンショウウオにとって最も良い環境づくり」を模索し続けておられます。意見の対立や気象条件の変化など様々な問題はあるものの、「森公園」内の個体数は増加傾向にあるようです。「人間サイドだけの考え方や、行動ではだめである」。「水辺と山との連続性や、高低差も含めた慎重なボランティア作業をこれからも続けていきたい」と熱く語っていただきました。頭が下がります。丸山でも知見発揮をお願いします。（うちの会員でもあります）



熱く語る清水さん



生物多様性国家戦略について 武田さん

武田さんは「植物生態学」（生態社会学やったか？）が専門。様々な植物がどう関わりあい暮らしているかの研究だったような。人との関わりも重要で、まさしく生物多様性の宝庫「里山」もメインの研究テーマ。今回は基本中の基本「生物多様性とは」をテーマに、国際的な動きから 30by30、ネイチャーポジティブ、OECD など日本が取り組むべき課題までお話しいただきました。簡単なはずが結構難しい…。※30by30=2030 年までに国土（陸域・海域）の 30%を健全な生物多様性地域として保全するという国際的な約束。（自然共生サイトとも）

生物多様性の要素。①生態系の多様性②種の多様性③遺伝子の多様性が基本。あと 1 つ④景観の多様性を付け加えられたのが印象的でした。これは武田さんのオリジナルのような…一般的なのか？また教えていただきましょう。いずれにせよ 2030 年が「ティッピングポイント」（また出てきました）。これは国際認識。

最新情報では 2030 年（当然 2050 年）には間に合わない。

でも知らないよりは知っていたほうがいいに決まっている。今できることを少しでも。武田さんは「東お多福山草原におけるススキ草原」の保全や、地域（吹田）に残された自然の保護活動にも市民団体の一員として参加されています。このような小さな動きがプラスのティッピングポイントにつながるに違いない。諦めてはいけません！

午後は「森公園」内の湿原見学。異常気象？で雨が降らず水無しです。丸山も同様。やはりティッピングポイント？話がぐちゃぐちゃになってきました。セミナー報告はここまで。



「森公園」内湿原散策と観察 「水なし！」

### 定期活動 ★11月26日（日）里山愛す会との協働 宝塚北高校放送部も参加 21名で作業

毎年恒例になってまいりました。「協働」です。恒例とはいえまだ4回目でしょうか？寒さや雪のため諦めたり、暖かい時期に変更たら雨で流れたり。しかし今回は大丈夫。が、行事の重なる時期で「愛す会」からは4名の参加。そこへ力強い助っ人が。今年の夏から取材で入ってくれている「宝塚北高校放送部」4名が参加してくれました。（顧問1名を含む）



結構太い木も鋸で十分？



「手練れ」の技が光る

今回のミッションは？湿原内水路の堰き止めに使う土（鈹質土≒シルト？）を第1湿原東側の尾根の「はげ山（ズリ）」から運び出す計画があり、土の輸送路を開削する！これに決定しました。雑木林ですが、直線距離で40mほど。山の斜度は比較的緩い。しかも覆う雑木は約10年経過の柴類。約2mの幅の道？で行けるか？開けられるか？

「ここの雑木を地際から皆伐します！」と掛け声は高らかに。返事は…「無理…無理…」かと思いきや。「よ～し！」のレスポンスも無く淡々と始まりました。

得物（えもの＝武器）は小型チェーンソー、鋸（のこ）、鉈（なた）、鋏（はさみ）、鎌（かま）、そして最終兵器＝

口（しゃべくり）。最強です！人が密になりがちなので、安全距離を保ちつつ各自出来ることを。

無理かと思っていたのですが、愛す会を始めとしたかなりの「手練れ（てだれ）」のおかげで午前中に片付きました。久々に登場した「監督」や「高校生」のエネルギーが注入されたからでしょうか？



はげ山でのランチタイム 取材は続く

取材カメラも回っていたし…さてこの道をどう使うかが問題。土を詰めた土嚢（生分解）をソリ（雪の上を滑るやつね）に載せて下るのはどうか？という案が出ています。木は地際で処理したはず。結構うまく行くかも？と思っています。ソリがあったかな？ま～とにかく1度人が乗って滑り降りてみるのも必要か？ヘッヘッヘッ…楽しみやわー！

はげ山（ズリ）の尾根で昼食。その間も「放送部」の熱心な取材は続いていました。何を聞かれているかはあまり漏れ出てきませ



作業の様子をVが追いかける



うまくできた？ Road to Hageyama

ん。なんでやろ？悪口言ってるんでしょか？そんなことはない。私は「カッコええこと言い過ぎた…」

ま～私たちが「見聞きする機会」があるかどうかは不明ですが楽しみにしていきましょう。「宝塚北高校放送部」は帰りのバスの時間の都合でここまで。「若い力よさようなら！」また来てください。（あっ！監督は最後までおるよ！）取材でも作業でも調査でも、多くのメニューを用意しています。お好みに応じて…

午後は開削した遊歩道から視点場への道際の常緑樹伐採。こちらにも効率よくできてすっきりしました。枯れ松（小木）の処理も少々。（こちらは監督の仕事）幹は湿原内の「土留め」に活用できそう。作業は12月24日（日）を予定。



視点場へのアプローチもクリアに

**定期活動** ★12月9日（土） 冬季作業 8名で活動 基礎調査（翌日12月10日計測）

目的	市内	市外
丸山湿原	32	38
登山・ハイキング	31	59
散歩	0	11

来場者数計 171人  
(12月9日調べ)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
入口	10:01	13.9℃		
第3湿原	10:18	【8.5】	50.4 μS/cm	5.9
視点場	10:33	12.4℃	50.6 μS/cm	5.2
第1湿原	10:45	【6.4℃】	47.7 μS/cm	5.7
第2湿原	11:03	【8.2℃】	51.1 μS/cm	5.9



金色に輝くヌマガヤ

12月に入ってまた異様な気候が続いています。「小春日和」がいつまで続くのでしょうか？しかも「雨」が極端に少ない。キノコ類は全くと言っていいほど出なかった。原木椎茸も出ない！困りものです。（個人的な話ですが…）

さて、12月は定期観察日も湿原内のヌマガヤ（沼茅）刈り取り作業となります。それが気になり、EC等の計測機器を忘れま

した。カウントは当日。データは翌日。人間とは勝手なもの

で「寒くならない！」と文句を言いながら、「作業」のときは「小春日和」が気持ちいい。汗ばむほどですが、楽しくとっても真面目に作業ができました。刈払機4台投入。（化石燃料使用ですが…）金色に輝くヌマガヤを刈り取って行きます。手作業、運び出しも黙々と。「いつからこんなに真面目チームになったんやろ？」と一抹の不安を感じながら。



刈り取ったヌマガヤ 運び出し中

刈り取った下からは、かろうじて花をつけたウメバチソウ（梅鉢草）や、瑞々しいオオミズゴケ（大水苔）などの「きれいな緑」が現れました。

「水問題」ですが、丸山湿原はミルフィーユ構造の地盤。染み出るところからは出てきていて、低い所には結構溜まっていた。しかし排水部からの流出はほんの「チョロチョロ」川も「チョロチョロ」状態でした。結構長期にわたってこの状態が続いており、植生に与える影響もあるのではないかと思います。その意味でもヌマガヤの刈り取りは重要。頑張りました。第3湿原は7割終了。次回第1湿原を中心に進める予定。（ソリ遊び？を含めて…）

次回活動日 12月24日（日）納会（午後 農舎を予定） 1月13日（土） 28日（日） 2月10日